

令和 7 年

第 7 回

薩摩川内市教育委員会
(定 例 会)

会 議 録

令和 7 年 6 月 3 0 日

令和7年第7回 薩摩川内市教育委員会定例会

- 1 期 日 令和7年6月30日（月）
- 2 場 所 教育委員会室
- 3 出席委員 教 育 長 藤田 芳昭 教育長職務代理者 軍神利喜男
委 員 枇杷 眞弓 委 員 土器手正之
- 4 説明のために出席した職・氏名
教 育 部 長 花木 隆 教育総務課長 坂上 克久
学校教育課長 長野 和己 学校教育課指導担当課長 垣内秀一郎
社会教育課長 有村 慎吾 少年自然の家所長 南 健
中央図書館長 寺田 和一 甌島教育課長 有馬 文男
(オンラインによる出席)
学校教育課指導グループ長 鮫島 博 学校教育課専門員 辻 新太郎
- 5 記 録 者 教育総務課課長代理 南 和博
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 日 程
- (1) 会議録承認
- (2) 審議
報告第10号 臨時代理の報告について（令和7年度薩摩川内市一般会計補正予算
（第2回補正）に係る議案に関する意見の申出について）
議案第16号 薩摩川内市立学校通学区域・適正規模等審議会委員の委嘱について
議案第17号 薩摩川内市立少年自然の家運営協議会委員の委嘱について
- (3) 協議事項
児童・生徒の体力の現状と体力向上の取組について
- (4) 諸般報告
- (5) その他
ア 令和7年7月行事予定について
イ その他

開会時間 13時30分

【開会】

教 育 長 ただ今から、令和7年第7回薩摩川内市教育委員会定例会を開会いたします。

【会議録の承認及び会議録署名者の指名】

教 育 長 令和7年第6回定例会の会議録についてお諮りします。会議録を承認してよろしいですか。

（異議なしの声あり）

教 育 長 令和7年第6回会議録は承認されました。
会議録署名委員につきましては、常盤委員を指名します。

教 育 長 傍聴の申出はありますか。

教育総務課長代理 申出はございません。

教 育 長 本日の傍聴の申出はございません。

【非公開案件の確認】

教 育 長 本日の議事日程は、別紙の会次第にあるとおりです。

「議案第16号薩摩川内市立学校通学区域・適正規模等審議会委員の委嘱について」及び「議案第17号薩摩川内市立少年自然の家運営協議会委員の委嘱について」は、個人情報扱う案件でありますので、非公開としたいと思います。ご異議ございませんでしょうか。

（異議なしの声あり）

教 育 長 そのように取り扱わせていただきます。

【審 議】

教 育 長 それでは審議に入ります。

【報告第10号 臨時代理の報告について（令和7年度薩摩川内市一般会計補正予算（第2回補正）に係る議案に関する意見の申出について）】

教 育 長 報告第10号臨時代理の報告について（令和7年度薩摩川内市一般会計補正予算（第2回補正）に係る議案に関する意見の申出について）

教育総務課長 説明をお願いします。

教育総務課長 (議案書で説明)

教 育 長 質問はありませんか。

土器手委員 「ウミネコ留学」に関する経費が増額される理由を教えてください。
また、小学校建設費に関して、特別教室の空調設備設置に伴い高圧受電設備の整備が必要になったとのことですが、事前に予測できなかったのでしょうか。その点についても教えてください。

教育総務課長 まず、「ウミネコ留学」に関する経費の増額について説明します。本事業は「特定離島ふるさとおこし推進事業」に該当し、県からの補助金を受けて実施しています。当初予算では、補助金の内示前に措置が必要な経費については計上済みですが、補助金の内示後でも対応可能な経費、例えば広報活動にかかる費用などについては、6月補正で対応する形をとっています。次に、小学校建設費に関するご質問ですが、特別教室への空調設備設置に伴い、高圧受電設備の整備が必要となった件については、当初予算の段階では把握できておりませんでした。実際には、今年2月、当初予算の審議が終了した後に、設計会社を通じて九州電力から「現行の低圧受電設備では空調設備の電力供給が不十分である。」との指摘を受けました。そのため、当初予算には盛り込むことができず、今回の6月補正で対応することとなったものです。

土器手委員 電力会社からの指摘がなければ、事前に予見することは難しかったということですね。

教育総務課長 はい。空調設備の設置に当たっては、どの教室にどの程度の設備を導入するかといった詳細を設計段階で詰めた上で、設計会社と九州電力が協議を行った結果、電力供給が不足することが判明したのが2月でした。

教 育 長 他に質問はありませんか。

(なしの声あり)

【議案第16号 薩摩川内市立学校通学区域・適正規模等審議会委員の委嘱について】

※本議案は非公開

教 育 長 議案第16号を承認してよろしいですか。

(異議なしの声あり)

教 育 長 ご異議はないと認めます。よって、本案は可決されました。

【議案第17号 薩摩川内市立少年自然の家運営協議会委員の委嘱について】

※本議案は非公開

教 育 長 議案第17号を承認してよろしいですか。

(異議なしの声あり)

教 育 長 ご異議はないと認めます。よって、本案は可決されました。

【協議事項】

【児童・生徒の体力の現状と体力向上の取組について】

教 育 長 学校体育の体育関係業務を担当する職員2人を、入室させます。

教 育 長 それでは、今回の協議事項は「児童・生徒の体力の現状と体力向上の取組について」です。協議事項につきましては、別紙資料をご確認ください。学校教育課長 説明をお願いします。

学校教育課長 (説明)

教 育 長 教育委員の皆様には、年間を通じて7校から8校程度の学校訪問を行っていただいておりますが、こうした現場でのご認識やご所見も踏まえながら、ご質問やご確認されたい点、あるいはご意見などをいただければと思います。

軍 神 委 員 体力の向上について、今の子供たちの世代を考えたときに、例えば、真夏のこの時期に運動をさせようとする、昔のように始業前や業間の時間などに「やっておきなさい。」といった指導ができていた時代とは違い、現在ではそれが難しくなっていると感じています。その背景には、熱中症のリスクや、その他の疾病、けがなどの危険性があり、学校としても、かつてのように思い切った運動指導を行うことが難しくなっているのではないかと思います。そうすると、単純に運動量を増やすということも、現実的にはなかなか難しいのではないのでしょうか。ただ、こうした状況は全国的に共通している条件の中で、本市の体力水準が低いのはなぜかと考えます。例えば、握力を高めるためには、何かを「握る」動作を取り入れるなど、また20メートル

シャトルランのように持久力を高めるためには、校庭を走るといった活動が必要になると思います。そうした取組が、果たして今の学校現場でどこまで実施可能なのかという点については、正直なところ不安も感じています。一方で、大人の社会に目を向けると、「生涯体育」から「生涯スポーツ」へ移行してきており、安心・安全な環境の中で、レクリエーションとしてスポーツを楽しむという考え方が広がっている中で、学校教育においては、体力向上をどこに目標として定めるのか、非常に難しい判断が求められているように思います。「タイムを縮める」「持久力を高める」といった競争的な要素を取り入れることも一つの方法ではありますが、今の時代では受け入れられにくい状況にあるのではないかと感じています。だからこそ、学校現場において、教員の皆さんがどのように体力づくりに取り組んでいるのか、ぜひお聞きしてみたいと思っています。

教 育 長 関連して何か質問はありますか。

常 盤 委 員 「運動を楽しむ」という考え方についてですが、特に大人にとっては、栄養指導の中でも運動が難しい場面においても、楽しみながら取り組める「生涯スポーツ」という考え方を非常に参考にしています。資料2の(2)に記載されている「データに基づいた補充運動」については、私が子供の頃に受けた体育の授業を思い返しますと、ハンドボールやマット運動など、特定の種目に取り組むことが中心だったように記憶しています。そのような中で、体力を伸ばすことを目的とした「体育科授業での補充運動」というものが、具体的にどのような形で実施されているのか、体力向上を目的とした補充運動の内容について、少しお伺いしたいと思います。

教 育 長 お二人のご発言に関連して、学校における体力向上の取組について、特に「データに基づいた補充運動」の実践例がありましたら、学校現場での具体的な事例を一つでも構いませんので、紹介してください。

学校教育課指導グループ長 体力向上は、学力向上と並んで喫緊の課題であると認識しています。授業時数に関して申し上げますと、小学校では週2、7時間、年間で約90時間、中学校では週3回、年間で約105時間の体育授業が実

施されています。しかしながら、これらの限られた授業時間の中で、児童生徒の体力向上を図るには限界があると考えています。そのため、必要となる取組として、家庭での体力向上プログラムの活用が挙げられます。県からもプログラムが提供されており、体育主任等会を通じて、家庭との連携を図りながら、積極的な活動を呼びかけているところです。また、各学校における体力向上の課題は多様であり、握力や持久力など、学校ごとに異なる課題を抱えていますので、体育主任等会では、まず各学校の現状を分析し、その結果をもとに年間計画を策定することから始めています。授業の導入段階で実施される補充運動の実践例としては、柔軟性に課題がある学校ではストレッチ運動を重点的に行い、持久力に課題がある学校では縄跳びや馬跳びなどを取り入れています。これらは、各学校の実態に応じた形で授業の導入時に行われる補充運動です。取組の柱としては、一つは、家庭への啓発活動、もう一つは、授業導入時の補充運動の実施の2点を中心に、各学校で工夫を凝らして取り組んでいる状況です。

学校教育課専門員

補足として申し上げます。体育主任等研修会は年2回開催されており、補充運動の紹介も行っています。県が作成した「かごしまの子ども体力向上プログラム」は、各学校に配布されており、柔軟性向上のための「雑巾歩き」など、様々な運動パターンが紹介されています。また、「これならできる！プラス5分運動」というプログラムもあり、選択して取り組むことが可能です。各学校の授業以外の時間帯での取組としては、朝の会などを活用している学校もあります。例えば、東郷学園では「ちょトレ」という活動を導入しており、また、1、2分程度の短時間でできる運動、筋力向上のためのグーパー運動を30回行うなど、継続的な取組を通じて体力向上を図っている学校もあります。

教 育 長

関連して、あるいは別件での質問はありますか。

枇 杷 委 員

今回のテーマについて、軍神委員がおっしゃったように、気温の上昇などの環境要因も含め、スポーツに取り組むことが難しいと感じることもあります。また、現代の子供たちは長時間のゲームで体力の低下が懸念されます。そうした中で、全体で頑張るという姿勢は非常に重

要だと感じる一方で、個々の児童生徒を大切にすることも同様に重要だと考えます。現在はタブレット端末が普及し、体力テストの結果をもとに、自分の不得意分野を把握し、例えば握力を向上させるにはどのような運動が効果的かを自ら調べることが可能です。このように、一人一人のカルテではないですが、自分の課題を認識し、目標を持って取り組むことができれば、教師がその努力を認め、評価することで、児童生徒の自信や意欲を育むことができるのではないかと考えます。全体としての体力の把握はもちろん重要ですが、個々の良さを見つけ、伸ばしていく取組がとても大事ではないかと、今回のテーマを通じて感じたところです。

教 育 長 学力については、平均通過率などの数値をもとに議論されることが多くありますが、やはり個々の児童生徒の状況を見ていくことの重要性、そして、運動能力や体力に関しては、個人差が大きいのではないかとこの認識を持っております。そのような観点からも、児童生徒一人一人を大切にすることが、重要であると考えています。そこで、学校において、いわゆる「一人一人の体力診断」や「カルテ」のようなものがあるのでしょうか。

学校教育課専門員 先ほどのご意見にもありましたように、体力の状況を全体的に把握するだけでなく、児童生徒一人一人の体力の伸びに着目することは、非常に重要であると考えています。鹿児島県では、「体力ナビ」というツールを提供しており、児童生徒が自身の体力テストの記録を入力することで、得意な分野や、努力が必要な分野を明確に把握することができます。このツールには「体力アップ作戦」という機能も含まれており、児童生徒が自ら、いつ、どのような運動を、何回行うかといった目標を設定することが可能です。また、先ほど紹介しました「プラス5分運動」と組み合わせることで、児童生徒が運動を選択し、体力の伸びを確かめることができるようになっています。体力テストを年2回実施している学校もあり、そうした学校では、児童生徒の体力の伸びを確認する取組も行われています。この「体力ナビ」の活用については、体育主任等研修会を通じて、すべての学校で積極的に使用す

るよう指導しているところです。

教 育 長 現時点で、「体力ナビ」の活用状況について、どの程度の学校が実際に取り組んでいるか、把握していますか。

学校教育課専門員 「体力ナビ」につきましては、現在、ほとんどの学校において導入されています。

教 育 長 児童生徒一人一人が、自分自身の体力の状況あるいは何が苦手なのかを把握できているのですね。そのうえで、「体力アップ作戦」において、担任が児童生徒に対して助言を行い、学校全体として支援しているということですね。ほかに質問はありますか。

土器手委員 そもそも、体力というものは自然に身につくものだと、私は思っていました。学校の体育の授業というのは、跳び箱の跳び方やマット運動の方法、ハードルは何歩で跳ぶかといった技術的な指導が中心であり、そうした活動の中で、子供たちは遊びながら自然と体力をつけていくものだと考えていました。しかしながら、今回示された体力の現状を見て、全国平均と比較した場合、また県や市の状況を見ても、鹿児島県は多くの項目で全国平均を下回っていることが分かりました。このような状況を踏まえると、学校として、子供たちに「体力をつけることの重要性」をしっかりと意識付ける必要があるのではないかと感じています。児童生徒自身が自分の体力の状態を自覚することはもちろん大切ですが、その自覚を促すためには、学校側、先生方が意識付けを行い、適切に導いていくことが不可欠です。「体力ナビ」をただ使うだけではなく、やはり、子供も先生も、授業や勉強、運動などで日々忙しい中ではありますが、児童生徒が自分の体力について自覚を持ち、先生方がそれを支える形でうまく誘導していくことができなければ、体力向上にはなかなかつながらないのではないかと感じています。今回の数字を見ながら、30数年前の自分自身が、本市の体力平均値を下げていたのではないかと、少し反省もしています。そうした思いも込めて、まずは「意識付け」が何よりも大切であると思います。

教 育 長 ちなみに、学力に関しては、全国的に秋田県や富山県などが高い水準にあるとされていますが、体力に関して、全国平均を上回っている都

道府県のデータについて、何か分かっていることはありますか。

軍 神 委 員 秋田県などは、体力面でも良い結果を示しているのではないかと思います。記憶にある限りでは、学力が高い地域は、体力も高い傾向があるという話を聞いたことがあります。

教 育 長 体力と学力の相関について、これまで何かお考えをお持ちの方はいらっしゃいますか。体験を交えてお話しいただけることがあれば、ぜひお聞かせください。

教育総務課長 (意見)

教 育 長 今、体幹という言葉も出ました。授業参観などを通して見えてくるのは、姿勢の乱れや集中力の差です。もちろん授業の魅力にも関係するとは思いますが、姿勢や体幹について、何かご意見があればお聞かせください。

土器手委員 空手の指導者としての経験からですが、何事においても、姿勢が良い子は強いと感じています。やはり、基本稽古や型の練習を通して、姿勢が整っている子は、強くなっていく傾向があります。私自身、握力も弱く、足も遅く、ボール投げも平均的でしたが、格闘技ではある程度の成果を上げることができました。周囲には、足が速く筋骨隆々な人もいましたが、そうした人たちを見ていても、やはり「数字では測れない強さ」というものがあると感じます。私自身、数値的にはそれほど優れていなかったかもしれませんが、格闘技においては「戦うセンス」が光っていたのではないかと考えています。少し話が逸れるかもしれませんが、経営においても「お金に対する嗅覚」がある人が成功するように、勉強や運動においても、特化した能力やセンスというものがあると思います。運動においても、姿勢や立ち姿から「この子は強そうだな」と感じる場合があります。そうした感覚も、教育の中で大切にしていけるべきではないかと思います。

軍 神 委 員 剣道においても、立ち姿が美しい人は、やはり背筋がしっかりと伸びていて、袴の着こなしも整っているため、自然と姿勢が良くなり、結果として立ち姿も美しく見えます。ですから、姿勢というのは非常に大事な要素だと思います。剣道の昇段審査は初段から八段までありま

すが、段位が上がるにつれて、構えた瞬間からすでに審査が始まっています。蹲踞の姿勢、構え、打ち込みまで、すべてが評価対象です。だからこそ、姿勢と基本がしっかりしていることが非常に重要です。ところで、運動好きな子供はどのくらいいるのでしょうか。運動習慣を身につけるには、まず運動好きが前提になると思います。勉強好きな子がいるように、運動好きな子もいるはずです。もし運動嫌いな子が多いとすれば、運動不足の原因はそこにあるのではないかと感じます。

教 育 長 二極化が言われて久しいですが、運動が好きかどうか、体を動かすことが好きかどうかという点について、何かデータはありますか。

学校教育課専門員 運動が好きかどうかという直接的なデータはありませんが、総運動時間のデータがありますので、口頭で説明します。本市の小学生男子は、全国平均が週 5 5 0 分に対して 5 1 7 分と、やや少ない傾向にあります。一方、小学生女子は全国平均 3 3 1 分に対して 3 6 9 分と、上回っています。中学生では、男子が全国平均 7 5 2 分に対して 7 8 7 分、女子が 5 1 7 分に対して 5 4 4 分と、いずれも全国平均を上回っています。このことから、運動が嫌いというよりは、むしろ運動が好きな子が多いのではないかと感じています。

軍 神 委 員 中学生は部活動があるので、運動時間が増えているのではないかと思います。小学生の場合、もし運動が嫌いであれば、学校でも外でも遊ばないでしょうし、家でも遊ばない。つまり、ゲームに時間を費やしているのではないかという気がします。そうすると、運動に慣れていない子も増えているのではないかと思います。

教 育 長 教育振興基本計画の 3 4 ページに「運動時間の確保」についての記載があります。該当箇所はページ下段になります。今、軍神委員がおっしゃった内容とも非常に関連が深い部分ですので、学校教育課長その箇所を皆さんに読んで、情報共有してください。

学校教育課長 (説明)

教 育 長 授業の中で、体を動かすことの楽しさを少しでも味わわせたいという取組は、先ほども説明がありました。家に帰ってから外で遊ぶという

習慣は、私たちの世代と比べると、今は少なくなっているように感じます。

軍 神 委 員 家でも手伝いがなく、帰宅後はゲームの時間の約束はするけれど、運動の時間の約束はしない。そうした状況の中で、ゲームに夢中になっている子供が多いのではないかと感じます。

教 育 長 甌島教育課長が甌島の子供たちを見ていて、運動の機会をもっと増やした方が良いと感じることはありますか。

甌島教育課長 甌島の子供たちの中には、遅くまでソフトボールなどに熱心に取り組んでいる子もいますが、そうでない子もいます。先ほども話に出ましたが、やはり二極化の傾向はあると感じています。ただ、例えば、読書量が多い里小学校では、綱引き大会で優勝するなど、体力のある子供たちもいます。

軍 神 委 員 甌島の子供たちは、海水浴に行くことはありますか。

甌島教育課長 海水浴に行くには、保護者の付き添いが必要です。ただ、中学生と一緒に遊びに行く子も多く、また防波堤から直接飛び込むような、そんな遊び方をしている子もいます。

教 育 長 そうした体験も、運動を好きになるきっかけになるのではないのでしょうか。

教 育 長 はい、残り時間もわずかとなってまいりましたが、ほかに体力づくりについて、ご意見はありませんか。

教 育 部 長 （意見）

社会教育課長 （意見）

軍 神 委 員 他の地域の子供たちの運動への取組方には、遊びの内容が違うということがあると思います。例えば、雪国の子供たちは、スキーやスケートなどを日常的に楽しんでいます。そうした遊びの中で、自然と脚力がついていくわけです。一方で、こちらの地域では、同じような体力を身につけるのは難しいのではないかと感じます。

常 盤 委 員 今の地域差の話を聞いていて、データがないと断定はできませんが、生活習慣病の対策の中でも、食事の変化以上に、運動量の減少が大きな要因ではないかと感じています。糖尿病の専門医の会でも、「糖尿

病の増加と車の台数の増加がほぼ同じ曲線を描いている」という話がありました。車の利用が増えることで歩く機会が減り、日常生活の活動量が減って筋力も落ちているのではないかと思います。最近では、食事よりも運動の重要性が強調されるようになってきており、健康運動指導士も「運動しない人は、まず背筋を伸ばすだけでも筋肉が働く。」とおっしゃっています。先ほど学校で取り組まれている「ちょトレ」や「プラス5分運動」などの活動を知り、非常に感心しました。少し体を動かすだけでも気持ちが良く、筋力や柔軟性があると疲れにくく、元気でいられます。大人に対して運動をピーアールする際も、「日常生活が楽しくなる」「気持ちが良くなる」といったところにアプローチすることが効果的だと思います。今、教育現場でそうした取組が行われていることは、素晴らしいと感じました。部長がおっしゃったように、遊びや体を動かす機会が減っているのであれば、ストレッチなどの簡単な運動でも「気持ちがいい」と感じられるような活動を、教育の中で習慣化していくことが大切だと思います。

教 育 長 本日の議論は、体力の現状から始まり、体力向上のための具体的な取組、さらには体格や食生活といった生活習慣にまで話が及びました。指導担当課長に、これまでの意見を踏まえた総括をお願いしたいと思います。

学校教育課指導担当課長 (意見)

軍 神 委 員 ふと思ったのですが、やはり一斉学習のように、ただ座って話を聞くだけの授業よりも、子供たちが主体的に動く授業の方が大事なのではないかと感じました。もちろん、体育の授業で行う運動とは違いますが、例えば、1日6時間の授業の中で、国語や算数などの教科を通じて、子供たちが自発的に動く場面があれば、1週間を通して見たときに、汗をかくような激しい運動ではなくても、体を動かす量としては非常に良い効果があるのではないかと思います。そうした意味でも、主体的な授業づくりは、体力向上にもつながると思いました。

教 育 長 はい、ありがとうございます。予定の時間は過ぎておりますが、教育振興基本計画においては、児童生徒の体力・運動能力について、全国

平均を100とした場合、令和11年度までに全国並みの水準を目指すという目標を掲げております。そのためには、各学校での体力テストの結果をもとにした分析はもちろん、市全体としての分析もしていくことが求められます。また、本日の議論の中で、委員の皆様から共通して出されたキーワードとして「運動の楽しさ」がありました。いかにして子供たちに運動の楽しさを感じさせ、動機付けをしていくかが、今後の取組の課題であると感じています。きつい運動よりも、まずは楽しく体を動かすことから始めることが、子供たちの意欲を引き出すポイントになるのではないかと思います。また、オリンピックやインターハイなどで活躍する選手の姿を見て、憧れを抱くことも、運動への関心を高めるきっかけになると思います。総合的に見て、子供たちの体力や体幹は、学習面にも大きく関係しているということを、改めて実感することができました。本日は、貴重なご意見を多数いただき、誠にありがとうございました。以上で協議を終わりたいと思います。

【諸般報告】

教 育 長 それでは、諸般報告について、教育総務課から説明をお願いします。

教育総務課長 （資料1 ページについて説明）

教 育 長 質問はありませんか。

軍 神 委 員 レガッタ大会、本当に素晴らしかったと思います。校長先生、教頭先生ともに、見事なご活躍でした。特に校長チームは、「やっぱり根性があるなあ。」と感じさせられました。2チームとも準決勝まで勝ち進まれ、本当に素晴らしい戦いでした。

教 育 長 ありがとうございます。7月10日の木曜日には市の校長研修会がありますので、軍神委員のお気持ちをしっかりと伝えたいと思っております。他に質問はありませんか。

（なしの声あり）

教 育 長 学校教育課の説明をお願いします。

学校教育課長 （資料2 ページについて説明）

教 育 長 質問はありませんか。

軍 神 委 員 9月に運動会を開催するという形は、もう崩れてしまったのでしょうか。例えば、5、6月に運動会が開催されました。言い方は少し乱暴かもしれませんが、教育委員会が、「この時期に実施しなさい。」といったような指導をして、9月に運動会を行うというのは、もうなくなってしまったのでしょうか。

学校教育課長 「必ずこの時期に実施しなさい。」といった強い指導をしているわけではありませんが、教育委員会としては、9月、10月にそれぞれ基準日を設定しています。例えば、今年度は水引小・中学校が5月に運動会を開催するなど、時期を早めて実施する学校も若干増えてきていますが、現状としては、やはり多くの学校が9月、10月に運動会を行っているというのが実態です。

軍 神 委 員 教育委員会としては「この時期に実施しなさい。」という方向性で指導しているということになるのでしょうか。それとも、学校の自主性に任せているということなのでしょうか。

教 育 長 運動会は学校行事であるため、基本的には校長が教育課程の編成に基づいて判断する事項であると考えています。ただし、近年の熱中症対策などを踏まえ、春季に運動会を開催する学校が少しずつ増えてきているのが現状です。また、先ほども説明しましたように、9月、10月の運動会については、教育委員会としては「この日を基準日とすること」といった形で、前年度に校長会との調整を経て日程を設定しています。9月には大綱引や子供綱引など、市の行事が予定されているため、学校行事と重複しないよう日程調整を行っています。また、地域との合同運動会を実施している学校もあります。そうした場合には、学校側と地区の協議会、あるいは自治会との協議を経て日程を決定しています。現在も、運動会の開催時期としては2学期が中心となっています。

教 育 長 他に質問はありませんか。

(なしの声あり)

教 育 長 社会教育課の説明をお願いします。

社会教育課長 (資料3 ページについて説明)

教 育 長 質問はありませんか。

教 育 長 他に質問はありませんか。

(なしの声あり)

教 育 長 少年自然の家の説明をお願いします。

少年自然の家所長 (資料6 ページについて説明)

教 育 長 質問はありませんか。

土器手委員 熱中症については、今後も注意が必要であり、身体にとっても大きなリスクとなるものですので、ぜひとも、職員の皆様はもちろん、利用される方々に対しても、しっかりと意識を持って対応していただきたいと思います。

常 盤 委 員 参加される方に対して、「朝食はきちんと食べてきましたか。」といったような、事前の問診のような確認は行われているのでしょうか。

少年自然の家所長 所として、各団体に対して一律に問診やアンケートを実施しているわけではありませんが、各学校においては、健康観察を含めた事前の確認を行っており、児童生徒一人一人の体調を見ながら、参加に向けて準備を進めてもらっています。

常 盤 委 員 何か起きてからでは遅いですので、「朝食を食べてきましたか。」

「水筒を持ってきましたか。」といった、基本的なチェックは事前に行っていただく方が良いのではないかと思います。

教 育 長 野外活動では、水筒の持参については、事前の学校との打ち合わせの中で、必ず確認されているのでしょうか。

少年自然の家所長 はい、事前の打ち合わせの中で、水筒の持参についても確認を行っています。また、所内には冷水機も設置しており、必要に応じて水分補給ができる体制を整えています。

教 育 長 熱中症については、先ほども話がありましたように、命に関わる重大な問題です。児童生徒自身が自らの健康を守る意識を持つことはもちろん、周囲の大人が注意を促し、適切な対応を取ることが重要です。今後とも、十分な配慮をお願いします。

教 育 長 他に質問はありませんか。

(なしの声あり)

教 育 長 中央図書館の説明をお願いします。

中央図書館長 (資料 7 ページについて説明)

教 育 長 質問はありませんか。

(なしの声あり)

教 育 長 甌島教育課の説明をお願いします。

甌島教育課長 (資料 1 1 ページについて説明)

教 育 長 質問はありませんか。

常 盤 委 員 6 月 2 1 日の土曜日に開催された里公民館講座において、「魚の捌き方教室」が実施され「大人のための講座」として 1 1 人の参加があったとのことですが、子供たちの参加はあったのでしょうか。

甌島教育課長 メインの対象は大人でしたが、実際にはご家族で参加されている方もいらっしゃいましたので、子供たちの姿も見られました。

常 盤 委 員 子供たちにも魚に親しむ機会が広がっていくと良いなと思い、質問しました。

教 育 長 他に質問はありませんか。

(なしの声あり)

教 育 長 以上で諸般報告を終わります。

【その他】

教 育 長 次に(4)その他のア 令和 7 年 7 月行事予定について、教育総務課から順に説明をしてください。

教育総務課長 説 明

(以後、順次各課からの報告)

教 育 長 行事予定について、ご質問はありませんか。

(なしの声あり)

教 育 長 それでは、「イ その他」に入ります。事務局から何かありますか。

教 育 部 長 (6 月 2 6 日の総務文教委員会での報告内容について説明)

教 育 長 質問はありませんか。

(なしの声あり)

教 育 長 教育委員の皆様から何かございますか。

(なしの声あり)

【閉 会】

教 育 長 以上で、全ての審議が終了しました。これで、令和7年第7回薩摩川
内市教育委員会定例会を閉会いたします。ありがとうございました。

閉会時刻 15時35分

教 育 長

教 育 委 員